

## ■こんなにあるISO国際規格！

マネジメントの国際規格は今日現在数多く発行されています。代表的なものは、ISO9001（品質）、ISO14001（環境）、ISO27001（情報セキュリティ）、OHSAS18001（労働安全衛生）などですが、このほかに現在たくさんの国際規格が発行されているのをご存知ですか？

### 主な国際規格

規格番号	名称（マネジメントシステム）	内 容
ISO22000	食品安全	食中毒をはじめ人体に直接影響する食品の危害を防ぐ
ISO13485	医療機器	人体に悪影響を及ぼさないよう医療機器の安全性を高める
ISO50001	エネルギー管理	大量のエネルギー使用を低減させ貴重な天然資源を確保
ISO22301	事業継続管理	有事の際、いかにして事業を継続し顧客の期待に応えるか
ISO26001	CSR	企業は社会とともにあり、社会的責任を問われる
ISO39001	交通事故管理	道路での自動車事故の死者・重傷者をゼロに
ISO20000	IT サービス管理	IT サービスの継続的な管理を通じて効率化、生産性向上
ISO21500	プロジェクト管理	大規模開発に伴うプロジェクトの効果的なマネジメント

### ●セクター規格

上記のさまざまな国際規格はセクター規格と呼ばれていて、いわゆるひとつの目的を持った国際規格の位置づけといえます。これら数多くのセクター規格は、品質のISO9001が基になり派生してきました。つまり、経営者の方針、資源の確保、システムの実行、実行状況の監視・測定など、P-D-C-Aのマネジメントサイクルがセクター規格の骨格となり、それに各々の規格特有の要求事項が付加された内容で構成されています。従ってすでにISO9001を導入している組織にとっては、P-D-C-Aのマネジメントサイクルはしっかり頭にインプットされているはずですから、各々の規格特有の要求事項を理解さえすれば、これらのセクター規格を簡単に構築・導入することができるでしょう。

### ●審査規格と参考規格

さまざまな国際規格は、もともと第三者の審査機関が活用できるように発行されたものと、それらを意識せずに組織が自ら導入し活用できるものとして開発されたものに区分されます。ISO9001, 14001, 27001, 18001, 22000, 13485, 50001などは審査規格として発行されていますが、その他は審査の強制力はありません。自社に必要だと思われる規格であれば、自社独自の判断で自由に導入するための参考規格の位置づけです。

### ●統合マネジメントシステムの時代へ

昨今、すでに複数の規格を導入している組織が増えつつありますが、今後はさらに加速することが考えられます。というのは、さまざまなマネジメントシステムの整合化を目的に、HLS（High Level Structure）の考え方がここ1～2年で導入されるからです。これは今まで類似した規格要求事項や用語の違いを解消し、すべての規格のベースを統一することを意味します。となれば、どのような規格であれベースは同じなので、ある規格に別の規格特有の要求事項だけを付加すれば、簡単に統合マネジメントシステムが構築できてしまいます。これにより、現在複数のマネジメントシステムを個別に運用している企業は、急速にこの統合システムに向かうものと思われます。もともと複数のシステムを個別に運用すること自体馬鹿げています。どのような業種であれ、基本的には製品やサービスを提供する仕

事の流れはひとつです。各々の国際規格はそれを品質、環境、情報セキュリティなどの切り口から見たものに過ぎませんから、ひとつの仕事を進めながら複数の規格は「同時進行」していることになります。ということで、統合システムへの移行は自然な成り行きかもしれません。

## DASジャパンから

### ■ISO専門誌「ISOマネジメント」が休刊！

ISOの専門誌である「ISOマネジメント」（日刊工業新聞社）がこのほど休刊になりました。最近のISO認証登録数の頭打ちや雑誌の読者数の減少が大きく響いたようです。さて、本誌と弊機関代表との縁は深く、今から15年ほど前の創刊時から代表の記事が掲載されてきました。特に「間違いだらけのISOシリーズ」の特集は全国の読者に愛読され、その特集号が発売される月だけ大幅に売り上げが伸びるといって、出版社にとっての代表はまさに「ドル箱執筆者」としての存在でした。本誌は一貫して「ISOに取り組む中小企業」向けの内容に特化していて、中小企業がISOを導入し効果的に運用するためのヒントを、本誌から得た企業がたくさんあるかと思えます。日本は99%が中小企業のはずですから、読者数が急激に減少するとは考えにくいのですが、インターネットの普及により、専門誌によらなくても必要かつ最新情報が得られる時代背景があるかも知れません。もうひとつのISO専門誌「アイソス」（システム規格社）の方はいまだ健在のようですが、こちらも読者離れが起きているとのこと。昨今のインターネットによる情報収集はそれなりのメリットがありますが、情報が細切れになりがちで、よほど情報の整理術に長けていないと、せっかく収集した情報に振り回され逆効果になりかねません。いずれにしてもISO専門誌「ISOマネジメント」が休刊を余儀なくされたことは、ISOがひとつの曲がり角に来ていることを象徴していると思われま



代表が執筆した多数のISO間違いだらけシリーズ



間違いだらけの集大成が著書に

（編集責任者 萩原由利）



ISO認証機関 DASジャパン(株)  
代表取締役 萩原睦幸  
豊島区東池袋 4-27-5 LP 池袋 903  
[info@das-japan.jp](mailto:info@das-japan.jp)  
<http://www.das-japan.jp>